

特別規定

1 運営等に関すること

- (1) ベンチには登録された監督・コーチ・選手以外は入れない。
- (2) 外部指導者のベンチ入りは県中体連評議委員会において承認された者に限る。またベンチ入りに際しては、県中体連のプレートをつけ、試合終了後は本部へ返却する。
- (3) 監督はユニフォームとし背番号30番をつける。コーチの服装は平服（白を基調としたポロシャツ・同一の野球帽）もしくは背番号29番・28番をつけたユニフォームとする。但し、ノックを行う場合はユニフォームで行う。
- (4) 雨天・日没により試合続行不可能（5イニング）で試合は成立）な場合は翌日再試合を行う。中断・再試合等の判断については、選手の健康上の管理も含めながら会場責任者及び審判員の意見を十分に考慮し、県中体連事務局と専門部（大会本部）の合議で決定する。
- (5) 雨天等による大会実施可否の判断及び日程の変更については大会本部で決定する。
- (6) 試合終了は、ホームプレートをはさんだ挨拶と双方の選手の握手で全てとする。また、相手チームのベンチ及び本部席への挨拶は行わず、自チーム応援席への挨拶後、ベンチを速やかに空ける。
- (7) 勝ち残りチームの監督またはコーチは、球場を出る前に大会本部に連絡し次の試合日程の確認を行う。
- (8) 応援用の横断幕は、スタンドフェンスのグラウンド側ではなく観客席側につける。
- (9) スタンドでの応援は、基本的に各チームの監督が責任をもって、中学生らしい応援を心がけること。特に鳴り物（太鼓・笛・ペットボトル等）を使用する場合は、自チームの攻撃時のみとする。なお、拡声器や音響機器の使用は禁止する。
- (10) 4回裏終了後、及び7回裏終了後に補助員によるグラウンド整備を行う。バッターボックスは整備後にラインを引くが、ピッチャーズマウンドには整備を入れない。また、5回表の投手の準備投球は3球とする。

2 試合前に関すること

- (1) 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定等は試合開始予定時刻の40分前とし、その他の試合については、前試合の4回終了時とする。同一チームが連続して行うダブルゲームについては20分前とする。各チームの監督と主将は、メンバー用紙5部（本部・審判・放送・相手チーム・自チーム）を持って所定の場所へ集合する。
- (2) ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- (3) シートノックは試合開始30分前から、後攻側から始め通告時より7分以内とするが、天候等事情（秋季大会初日の日没を考慮する場合も含む）により省略・短縮またはサイドノックに変えることもある。ノックは監督・コーチが行う。選手18名以外の補助員は3名認める。ノックの時、補助をする選手と選手以外の補助員は、必ずヘルメット着用のこととする。ダブルゲームの場合、シートノックは行わない（球場が変わる場合はこの限りではない）。シートノックをしていないチームはベンチ内で待機すること。ただし、先発バッテリーのみ球場内ブルペンの使用は可。
- (4) 試合前の相手シートノック時に県専門委員審判部による服装・用具点検を行う（シートノックを行わない場合は、ベンチ入れ替え後すぐに行う）。
- (5) 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないように球場内のブルペンでの投球練習を許可する。但し、球場外にブルペンがある場合には球場外のブルペンを使用する。服装は試合用ユニフォームとし、捕手は捕手の装具を全て着用する。
- (6) 同一チームが連続して試合を行う場合の2試合目の開始時刻は、1試合目終了から40分後を原則とするが、天候によっては本部で判断することもあるのでこの限りではない。
- (7) 第1試合前のアップ時の服装については、試合用のユニフォーム（背番号付き）を着用すること。ただし天候等で選手の健康面に配慮する場合についてはこの限りではない。

3 ルール等に関すること

- (1) 2019年公認野球規則、2019年(財)全日本軟式野球連盟競技者必携および、本大会の特別規定、申し合わせ事項に準じる。
- (2) ベンチ内のメガホンの使用は1個とする(使用は監督のみ)。
- (3) リストバンド・リストガード・バットリングの使用を禁止するが、マスコットバットの使用は許可する。なお、リストガードについては、医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。
- (4) 手袋の使用は攻撃・守備に関わらず許可する。但し、色については黒または白の単一色及び両手同一の色とする。出塁した際、着用又は自分のポケットに入れる。ランナーコーチには渡さない。
- (5) アピールができるのは、監督または当該プレーヤーとする。
- (6) 事故防止のため、打者・走者・次打者・ランナーズコーチは両耳用ヘルメットを着用する。また捕手はスロートガード付きマスク(スロートガード一体型マスクも可。ただし、スロートガード付きマスクが望ましい)・レガース・捕用手ヘルメット・プロテクター・ファウルカップを着用する。
- (7) 攻守交代時の代理捕手は、必ずスロートガード付きマスク(スロートガード一体型マスクも可。ただし、スロートガード付きマスクが望ましい)・レガース・捕用手ヘルメット・プロテクターを着用する。なお、ファウルカップ着用が望ましい。
- (8) 攻守交代は迅速に行い、守備側の投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置く。また、攻撃側の先頭打者とランナーズコーチは速やかに所定の位置につく。
- (9) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。
- (10) 投手(救援投手を含む)の準備投球数は、初回に限り、7球以内(1分限度)が許される。次回からは、3球以内とする。
- (11) 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
- (12) 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判員が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位の者とする。
- (13) 試合進行上、打者席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見る、投手はプレート上でサインを受けるなどスピーディーな試合進行を心がける。ボール回しは試合の進行上禁止することがある。
- (14) 投球制限(競技者必携P24 競技に関する連盟特別規則(少年部・学童部)8)は本大会では適用しない。
- (15) 規則5.10(d)原注(同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない)は適用しない。
- (16) 監督が投手のところへ行く回数の制限(規則5.10(ℓ)関連)
 - ①「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からファウルラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合も同じとする。
 - ②ボールデッド中で改めてタイムをとる必要がない状態の時も、①と同じ行為であれば回数に数える。
 - ③監督が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、2イニングに1回行くことができる。
 - ④監督が、同一イニングに同一投手の所へ2度目に行った場合は、投手は自動的に交代しなければならない。但し、交代した投手が他の守備位置につくことは許される。なお、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。
- (17) 守備側のタイムの回数制限
捕手または内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、2イニングに1回行くことができる。野手(捕手を含む)が投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。
- (18) 攻撃側のタイムの回数制限
攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式を含む)は、2イニングに1回とする。
- (19) タイムは1分以内を限度とする。

(20) 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側（捕手）のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。

4 マナー等に関すること

(1) ユニフォーム・頭髪・用具類は中学生らしく、華美にならないように留意すること。

①ユニフォームはベルトをきつく締め、試合中に上着が出ないように十分気をつけること。

②帽子は前髪が見えないように深くかぶること。

③眉そり・茶髪等については選手及び監督へ厳重に注意し指導する。指導された選手の大会参加については、当該校校長に連絡の上、大会本部の判断に委ねること。

(2) 監督・コーチの服装についても選手と同様、十分留意すること。シューズについては、選手と同色のアップシューズまたはスパイクとする。

(3) ストッキングは、選手によってミドルカットやローカット、紺や黒等が混在しないようチームで統一すること。なお、カラーソックスのみの着用や、ハイカットストッキングは危険防止のため禁止とする。ソックスとストッキングの両方を着用すること。

(4) ヘルメットは SG マークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護スチロールが外れるもの、保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。

(5) グラブのひもの長さは危険防止のため親指の長さ程度とする。

(6) 参加校はゴミ袋を準備し、責任をもって後片づけを行い持ち帰ること。弁当の空き箱についても業者に確認し確実に処分すること。